

令和元年度 第2回 動物愛護センターの施設活用検討部会

日時：令和2年3月3日（火）

午後1時30分から

会場：動物愛護センター 市民活動室

～ 次 第 ～

1 開会

2 議題

動物愛護センターの施設活用について

- (1) 令和元年度の実施報告
- (2) 令和2年度以降に向けての検討案
- (3) 長期的に検討が必要な内容

3 その他

4 閉会

【 配付資料 】

- ・ 動物愛護センターの施設活用（案）について (資料1)
- ・ ふれあい室(犬舎スペース)の譲渡団体への貸し出し（案） (資料2)
- ・ 聴導犬育成・貸与プロジェクト（委員案） (資料3)
- ・ 災害時ペット同行避難体験イベントの開催（案） (資料4)

動物愛護センターの施設活用（案）について

平成 30 年度に人と動物との共生推進よこはま協議会において、動物愛護センターの施設活用について御意見を頂き、令和元年度から部会で具体的な内容の検討を行っております。令和元年度の施設活用については、以下のとおり実施いたしました。また、令和 2 年度以降の検討案について、御意見・御提案をお願いいたします

1 令和元年度の実施報告

- (1) 飼育体験実習室等における動物愛護センター登録団体主催の譲渡会の実施
開催回数：6 回（8 月から毎月実施）
参加団体数：4 団体、参加人数：延べ 510 人
- (2) 動物愛護センター出入口を明るくするための季節ごとのモニュメント等の設置
- (3) 「ふれあい広場」を広く市民に利用してもらうための予約方法の見直し
令和元年 5 月まで：利用は予約
現 在：平日午前中一般開放
令和 2 年 4 月から：終日一般開放にて利用可能とする

2 令和 2 年度からの実施に向けての検討案

- (1) ふれあい室(犬舎スペース)の譲渡団体への貸し出し 資料 2
横浜市動物愛護センター譲渡団体として登録している団体への貸出しを検討しています。
- (2) 聴導犬育成・貸与プロジェクト（委員案） 資料 3
「犬ふれあい室」を改修し、収容犬を聴導犬等に育成する。
- (3) 災害時ペット同行避難体験イベントの開催 資料 4
犬を飼育している市民を対象に、シミュレーション訓練等の実施を検討しています。

3 長期的に検討が必要な内容

- (1) 「ふれあい広場」の一部をイベント毎で貸し出し、ノーリードでの使用について逸走防止用の柵等の設置や事故対応、騒音などの観点から課題が多い。

ふれあい室(犬舎スペース)の譲渡団体への貸し出し(案)

- 1 開始予定日
令和2年8月ごろ
- 2 貸出スペース
犬ふれあい室 EV ホール入口側
- 3 貸出対象
横浜市動物愛護センター譲渡団体として登録している団体
- 4 貸出期間
開始日から令和3年3月31日までの月曜日～土曜日、午前9時から午後5時まで
- 5 貸出方法及び利用目的
 - ・センターから引き出した動物又は各団体で保護した動物の譲渡のみを行う。
 - ・対象動物は犬猫を原則とする。
 - ・譲渡対象犬は犬舎内にいれ、猫は犬舎内にケージを入れて展示する。
 - ・譲渡対象動物以外の動物の持ち込みを禁止とする。
 - ・譲渡対象動物の世話は当該団体が責任をもって行う。
 - ・利用時間以外は団体施設に動物を連れ帰ることとする。
- 6 利用上の注意点
 - ・原則としてワクチン接種済みとする。
 - ・感染予防のため、センター収容動物がいるスペースには入らないこととする。
- 7 今後の検討内容
利用状況や利用団体の要望を聞き取り、より利用しやすい形を検討していく。
例) 犬ふれあい室を回収し、広く利用しやすいスペースを確保することで、譲渡会や啓発事業等に利用しやすくする。

2020.2.6

「聴導犬育成・貸与プロジェクト」

検討資料

【背景】

- 「誰一人取り残さない社会」実現の要請の高まり
- 聴覚障害者(ニーズ)に対する聴導犬実働頭数の不足
- 聴導犬の認知度の低迷

【ねらい】

- 実働頭数が低迷している聴導犬の「育成」「無償貸与」促進
- 動物愛護センター(施設)の有効活用

◆ 第1フェーズ

補助犬育成団体がセンターの一部施設の「使用許可」を得て聴導犬候補犬の訓練を実施

- ・ 目的 公開での訓練のあり方の検証
センターの業務との親和性の確認
センター来場者インタビューの実施
課題抽出・P D C Aサイクルによる検証
- ・ 実施期間 4月1日～8月31日
4月 実施内容について検討・調整
5月～7月 トライアル事業実施
8月 検証
- ・ 使用施設 センターと調整して決定
- ・ 使用回数 10回
- ・ 内容 毎回3時間(13:30～16:30)訓練を実施
訓練士1名+候補犬2頭

◆ 第2フェーズ

- ・ 目的 第1フェーズの結果を踏まえてブラッシュアップした事業の実践・検証
- ・ 実施期間 9月1日～1月31日
9月 第2フェーズのプログラムの構築
10月1日～12月31日 事業実施
1月 検証
- ・ 使用施設 センターと調整して決定
- ・ 使用回数 10回
- ・ 内容 毎回6時間(10:00～16:00)訓練を実施
訓練士1名+候補犬3頭

※ 2月・3月は2021年度事業に関する検討・調整を行う。

◆ 2021年度

第1フェーズ・第2フェーズの結果を踏まえて事業計画を策定
通年実施

◆ 本格稼働時

- ・ 開始時期
スポンサー企業確保後
- ・ 事業主体
横浜市、補助犬育成団体＋スポンサー企業
- ・ 使用施設
聴導犬育成専用施設（センターを一部改修して設置）
- ・ 負担区分
横浜市 施設の改修・無償貸与
補助犬育成団体 聴導犬の育成・認定
スポンサー企業 経費負担（補助犬育成団体が確保）
- ・ 補助犬育成頭数
3頭／年

※ とりあえず、2020年度を「トライアル期間」とする。

※ キーポイントは「使用許可」だけで事業を行うこと。

※ 2021年度は、

2020年度の成果を踏まえて事業を継続するものとし、

- ・ 「使用許可」ではなく「無償貸与」
- ・ 週5日実施
- ・ 外部資金の導入(スポンサーの確保) に向けたプロモーション活動の実施に取り組む。

■ スポンサーについて

企業PRにどこまで使えるか

ネーミングライツは考えられないか

災害時ペット同行避難体験イベントの開催（案）

- 1 開催予定日
令和2年8～10月ごろ
- 2 対象者
犬を飼育している市民
- 3 宿泊しない災害時ペット同行避難体験イベント内容
 - (1) シミュレーション訓練
 - ア 飼い主同士で協力し「飼い主の会」を立ち上げ
 - イ 一時飼育場所の設置、一時飼育場所における飼育・衛生管理
 - ウ 役割分担や運営委員（職員）への報告 など
 - (2) 講義テーマ
 - ア 災害時ペット同行避難について（平常時の備えについて）
※ペットをケージに入れた状態で、講義を実施
 - イ 災害全般について（ペットに限らず災害全般について）
 - (3) その他
 - ア 食事
 - イ グループ討議にて課題の抽出
 - ウ アンケートの実施
※同行避難宿泊体験イベントを実施する場合の興味の有無 等
- 4 検討内容
宿泊する災害時ペット同行避難体験イベントにむけてアンケートにより、時間、内容、実施の有無なども含め検討する。
※宿泊の場合、必要な届け出の他に周辺地域への周知（騒音など）